

除去食試験が成功しないのはなぜ？

除去食試験は誰がやるの？

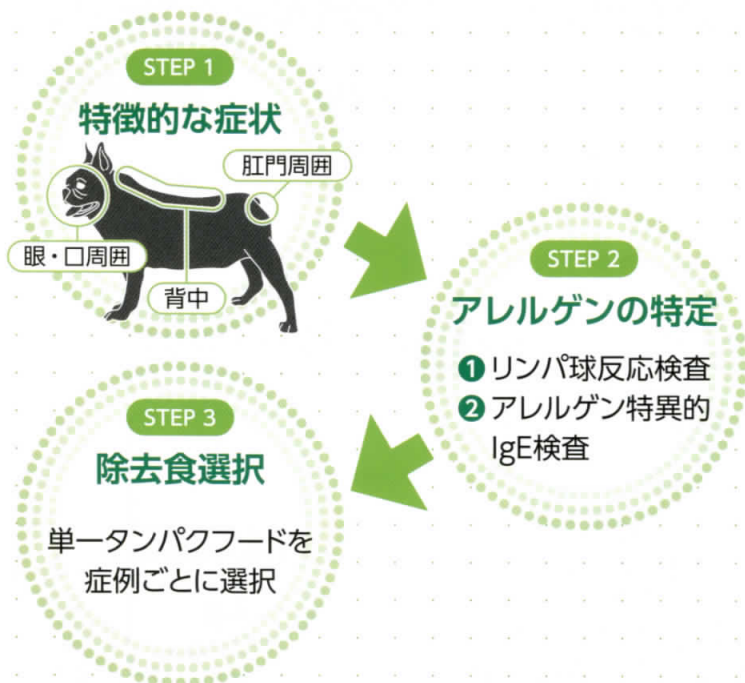
▶ 獣医師は試験の現場を見ることができない

その子にとって本当に除去食なの？

▶ 全ての食物アレルギーの犬に効く完璧な除去食は存在しない



除去食療法の3つのステップ



● 特徴的な症状が1歳未満から通年性に認められるかどうかを確認します。

！ 飼い主様への問診が重要です！ 同封の問診表もご活用ください

● イヌの食物アレルギーの約80%はリンパ球タイプのため、リンパ球反応検査を優先します。

● IgEとリンパ球は別々のアレルギー反応であり、原因食物は必ずしも一致しません。

除去食選択の2つの常識

1 リンパ球は加水分解タンパクにも反応することを知っていますか？

● IgEは分子量10,000ダルトン以上のタンパク質にしか反応しませんが、リンパ球は分子量1,000ダルトン未満のタンパク質にも反応します。

● IgEタイプ of 食物アレルギーでは、加水分解タンパク(10,000ダルトン未満)を原料とした除去食が有効ですが、リンパ球タイプでは加水分解されていれば良いとは限りません。検査結果に基づき、リンパ球が反応しない原料を用いた除去食を症例ごとに選択する必要があります。

2 大豆油の微量タンパク残留を気にしていますか？

● 大豆油はタンパク残留が多く、大豆アレルギーの症例では反応する場合があります。また、「植物性油脂」と記載がある場合、大豆油が使われていることが多くあります。

● イヌのリンパ球タイプ of 食物アレルギーにおいて、大豆が反応する割合が高いと報告されています¹⁾。

1) SUTO, A., et al. (2015) : J.Vet.Med.Sci., 77(2):251-254

新しい除去食選択

主原料を
肉・魚・野菜に
分けて考えよう!

当社検査パネルと3つの分類の関係

	主要食物アレルギーパネル	除去食アレルギーパネル
肉類	牛肉・豚肉・鶏肉・卵白・卵黄・牛乳	羊肉・七面鳥・アヒル
魚類	—	サケ・タラ・ナマズ・シシャモ
野菜類	小麦・大豆・トウモロコシ	ジャガイモ・米

- IgEやリンパ球の交差反応を考慮し、食物タンパク源を大きく3つ(肉類、魚類、野菜類)に分類して考えます。
- アレルギー特異的IgE検査およびリンパ球反応検査で異常値を示した項目を含む分類の食物はすべて避けます。
- 除去食選択の例：卵白に1.2%のリンパ球反応が検出された場合、卵白は肉類に分類されるので肉類すべてを避け、魚類または野菜類を主原料とした単一タンパクフードを選択します。

ピュアプロテインの特徴

POINT 1 単一タンパク

チキン、サーモン、小麦の3種類があります。

肉、魚、野菜の3つの分類に各1製品が対応し、検査結果から選択しやすくなっています。副原料にもこだわり、タンパク残留がほとんどない菜種油やタピオカを使用しています。

POINT 2 国産

国内の工場生産ラインを厳密に管理し、他のタンパク質が混入することがないように、細心の注意を払いながら生産しています。

POINT 3 動物病院専用

動物病院のみで処方できるフードで、担当獣医師が検査結果に基づいて選択します。

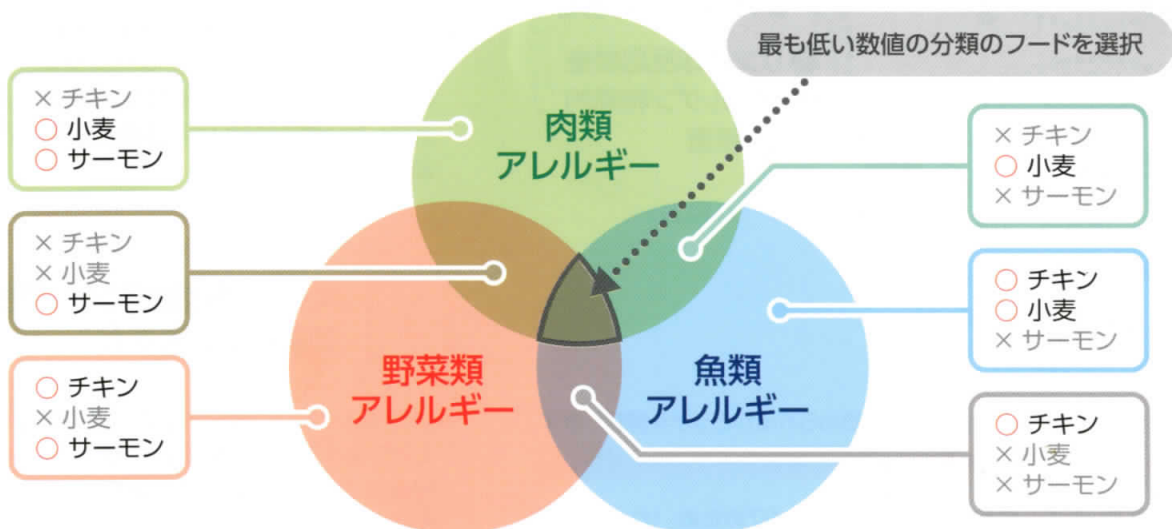


チキン

サーモン

小麦

ピュアプロテインの選び方



アレルミューン®HDM使用までの 3STEPチェック表

STEP 1 感染症の除外または適切な治療

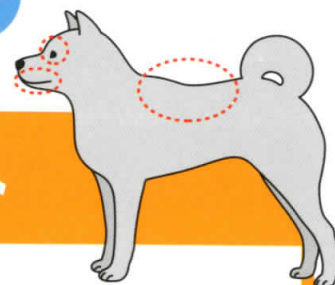
外部寄生虫(ノミ、疥癬、毛包虫)

治療：駆虫薬 など

細菌・真菌(マラセチア)感染

治療：抗生剤・抗真菌剤 など

かゆみが残る



STEP 2 食物アレルギーの除外

- ・ 1年を通して皮膚症状がある
- ・ 1歳未満から皮膚症状がある
- ・ 口・目の周り、背中に皮膚症状がある
- ・ 1日3回以上糞便をする

上記、1つでも該当する場合は食物アレルギーを疑ってください

かゆみが残る

STEP 3 血清 IgE 抗体検査の実施

ハウスダストマイト(チリダニ)の
グループ2アレルゲン(Der f 2およびDer p 2)の感作を確認

検査結果：陽性

アレルミューン®HDMの投与開始

環境アレルゲンの季節表

アレルゲン名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ヤケヒョウヒダニ					■	■	■	■	■			
コナヒョウヒダニ					■	■	■	■	■			
ノミ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
蚊				■	■	■	■	■	■			
ゴキブリ				■	■	■	■	■	■			
ヨモギ			■	■	■	■	■					
オオブタクサ						■	■	■	■	■		
アキノキリンソウ							■	■	■	■		
タンポポ				■	■	■	■	■	■			
フランスギク				■	■	■						
カモガヤ				■	■	■	■					
ハルガヤ				■	■	■	■					
オオアワガエリ				■	■	■	■	■				
ホソムギ				■	■	■	■					
ギョウギシバ					■	■	■	■				
ニホンスギ		■	■	■	■							
シラカンバ				■	■	■						
ハンノキ	■	■	■									
アスペルギルス		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
アルテルナリア		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
クラドスポリウム		■	■	■	■	■						
ペニシリウム		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

Matsuoka, H., et al. Jpn J Med Sci Biol, 1995, Takatori, M., et al. Arerugi, 1994, Ando, M., et al. Nihon Kyobu Shikkan Gakkai Zasshi, 1993を元にして、動物アレルギー検査株式会社のアレルゲン特異的IgE値推移データ(2009年)を追加して作成